

スポーツで笑顔発信

オリンピックデーを開催

オリンピックデー・フェスタ in とよまは6月21日、登米小学校を会場に開催されました。

これは、日本オリンピック委員会が「スポーツから生まれる、笑顔がある」をスローガンに、オリンピック（オリンピック出場者）やアスリートがスポーツを通じて被災地を支援するイベントです。今回は、とよま地区市民体育大会と合同で開催。オリンピック5人は体育大会にも参加し、参加者と交流を深めながらスポーツの素晴らしさを伝えていました。参加した佐藤日向さん（登米小5年）は「オリンピックのように目標をもって頑張りたいです」と語っていました。



オリンピックデー・フェスタは3種目を実施。参加者はオリンピック5人と心地よい汗をかいていました。

知識と意識の大切さ

27年総合防災訓練を実施

平成27年度市総合防災訓練は6月7日、市消防防災センターを会場に開催しました。本年は中田町を重点地域に指定。当日は、自主防災組織や消防関係団体など9団体約300人が参加しました。

訓練では参加者が三つのグループに分かれ、初期消火、応急救護や指定避難所の運営訓練などを実施。自主防災組織役員による初動活動の図上訓練も行われ、それぞれ実際の現場を意識し取り組んでいました。

訓練に参加した中田町城内の小野寺幸徳さんは「毛布を担架にできることを初めて知りました。普段から災害時の対応について学習が必要」と語っていました。



バケツリレーで初期消火訓練をする参加者たち。初動対応は地域で自らするという意識を高めました。

トップリーグ目指す

ラグビークリニック開催

ラグビークリニック in 宮城（宮城県ラグビーフットボール協会主催）は6月28日、豊里花の公園を会場に開催されました。

クリニックは、ラグビートップリーグのコカ・コーラレッドスパークスの現役選手とゼネラルマネージャーで元ラグビー日本代表監督の向井昭吾さんを講師に迎え、県内の中高生を対象に技術やプレーでの心構えなどが指導されました。参加した星凌太君、小野寺理央君（共に佐沼中1年）は「トップリーガーのプレーは大変参考になりました。将来はトップリーグに入って活躍したいです」と笑顔で話していました。



現役トップ選手からの指導に、子どもたちはいつも以上に熱のこもったプレーをしました。

ようこそTOMEへ

サウスレイクから訪問団

本市の姉妹都市、米国テキサス州サウスレイク市から高校生の男女5人とその随行2人は6月9から15までの7日間、ホームステイなどで交流を深めました。

6月11日には豊里小中学校9年生全員と「プレゼンテーションコンテスト」で交流。豊里中生徒が英語で話し、サウスレイクの皆さんが3段階で内容を評価しました。酒井里菜さんは「修学旅行についてプレゼンテーションしました。全員から excellent の評価をもらえてうれしかったです」アナ・ワーナーさんは「皆さんの英語は素晴らしく、日本の文化を学べてよかったです」とそれぞれ話していました。



豊里中生徒の見事な英語でのプレゼンテーションに一同にっこり。訪問団一行とは身振り手振りを交えて交流を深めました。

水害対策抜かりなし

27年度市水防訓練を開催

平成27年度市水防訓練は6月28日、北上川河川歴史公園を会場に開催されました。この訓練は、消防団員の士気高揚、水防技術の向上と体制強化を目的に実施しています。

訓練では、袋に砂を詰めて土のうをつくる「準備工法」堤防の越水を防ぐ「積み土のう工法」堤防の漏水を防ぐ「シート張り工法」と漏水の圧力を弱め、量を軽減させる「月の輪工法」を実施。過去に東日本大震災で河川の堤防が被災していること、これから出水期を迎えることもあり、団員一同真剣な表情で訓練に取り組んでいました。



本番を想定しての訓練に、緊張感が漂います。作業は丁寧かつ迅速に進められました。

70年前の記録と記憶

企画展「戦争と暮らし」

市歴史博物館で、6月27日から8月30日まで市制施行10周年・戦後70周年企画展として「戦争と暮らし～資料で振り返る戦中・戦後～」が開かれています。企画展は「開戦前夜」「戦地へ」「学校資料から見る戦争」「人々の暮らし」の4つのテーマで構成されており、当時の国民学校の日誌や千人針など戦中・戦後の状況を伝える資料が多数展示されています。

7月4日、家族で訪れた菅原玲二君（佐沼中1年）は「歴史が好きで、企画展に来たのは2回目です。テレビで見るのとは違い、昔本当に戦争があったのだとあらためて感じられました」と話していました。



軍隊手帳、死亡告知書や青い目の人形など、普段見ることができない貴重な資料が多数展示されています。